

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	インテリジェントセンサーデバイスに関する基盤研究
研究責任者の所属・氏名	物質研究所 羽田 肇
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトは、NIMSの内外で見られる、力のある多くの専門分野を必要とするセンシング材料を扱うチャレンジングなプロジェクトである。 ・センサー専門学との共同研究をもっと行う必要がある（例えばUVセンサーでは名城大、大阪ガスグループなど（NEDO）、化学センサーについては岡田／柳田／ミクニの仕事など）。 ・光学センサーについては、フォトニックバンドギャップ材料と光学場のプラズモン増幅の利点について考えればよいだろう。 ・センサーの統合と、この統合がどのように個々のセンサー以上の成果を上げるかがはっきりしない。個々のセンサーの目標は意欲的である。これら目標のどれかが達成されないと、“インテリジェント”の目標に何が起こるのか。“インテリジェント”に明確な定義が必要である。 ・センサーの必要性は理解できるが、NIMSの独創性や特長がもっと発揮されるべきである。 ・本プレゼンテーションで示されたよりも、優れたアイデアが既に文献の中にある。
評価点	A+, A+, A-, A+, S, S, A, A+, N/A, S
総合評価点※	A

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。